

創徳中学校通信



仲間の思いを成長につなげよう

1学期が終わります。4月は2, 3年生がクラス替え, 1年生は中学校生活が始まるなど大きな環境の変化があり, 慣れるまで精神的に疲れることもあったのではないのでしょうか。これは大人も同じです。私自身も50人を超える職員数と600人を超える生徒数という大所帯である本校に異動となり非常に不安でした。

しかし, そんな私の不安を安心に変えたのは職員やあなた達の真面目な姿勢, 心温まる姿勢で優しい言葉掛けなどでした。

つい最近も, 登校指導に行こうと校舎前を歩いていると3階から1年生の生徒が「おはようございま〜す」と挨拶をしてくれました。また, 熱中症対策としてミストシャワーの取り付けをしていると「手伝いましょうか」「ありがとうございます」と声をかけてくれる生徒がたくさんいました。ありがとう。

さて, 話は変わって本校生徒の投稿が連日中日新聞朝刊に掲載されたので紹介します。まずは3年6組の角江悠陽さんの投稿(7月11日)です。参議院議員選挙の投開票の次の日でしたので, タイムリーな内容だったと思います。しかし, 私はこれを読んで角江さんは単に政治家の発言に言及しただけでなく, 日常の(学校)生活での発言, 人との接し方についても思うところがあったのではないかと感じました。文章中にもあるように「その発言は消えないし, 心の傷も残ります。」「発言で相手の心を傷つけないようにと心がけています。」「発言の前には, その発言をして本当にいいのかよく考えてします。」という部分は正に, 人と人が関わる上で考えなくてはならない大切なことだと感じました。

次は, 3年2組の早田理花さんの投稿(7月12日)です。3年生として最後の大会に臨む意気込みと自分と関わり支えくれた人たちへの感謝の気持ちが伝わってきます。この文章を読んで早田さんには成長に欠かせない大切な力が備わっていると感じました。

次世代から

発言撤回 心の傷は残る

角江 悠陽 中学3年
(三重県鈴鹿市)

「発言を撤回する」という言葉をよく聞きます。

政治家が失言をした後に言うこの決まり文句に疑問を感じます。自分の発言で誰かの心を傷つけてしまふのは日常生活でもよくあることです。が, 政治家がそれをしたときに言う決まり文句に意味があるとは思えません。

公の場での発言は記録され, 人々の記憶に残ります。誰かの心に残り, 深い傷を負わせることもあるでしょう。「発言を撤回する」と言っても, その発言は消えないし, 心の傷も残ります。

発言で相手の心を傷つけないようにしようという心がけています。そのため発言の前には, その発言をしても本当にいいのかとよく考えます。

失言したのに相手に直接謝らずに, それを撤回しようとする。そんな大人には絶対になりたくないです。

